

光学医療診療部

部長 後藤 秀実 (教授)

各種内視鏡や超音波検査など、最高水準の医療を提供

専従医師4名（兼任10名）、専従看護師4名（兼任3名）と検査部と協力して安全で最高水準の医療を提供しています。

診療体制

基本的に毎日午前8時30分から、上部内視鏡による診断・治療、下部内視鏡による診断・治療、胆膵系内視鏡による診断・治療および体外式超音波検査・治療（肝腫瘍に対する治療）を行っています。

対象疾患

胃・食道・十二指腸・小腸・大腸（上下部消化管）の良性疾患（炎症、潰瘍など）と悪性疾患（上皮性悪性腫瘍一癌、非上皮性悪性腫瘍）、肝癌、膵悪性腫瘍（膵癌）、膵良性腫瘍、胆嚢腫瘍、胆道腫瘍など。

得意分野

上部下部消化管癌に対する内視鏡的粘膜切除術、内視鏡的粘膜下層剥離術、超音波内視鏡ガイド下穿刺生検、経十二指腸乳頭の胆道膵臓診断・治療などです。

診療実績

内視鏡検査は年間約9,160件、その内治療内視鏡は年間約1,100件実施しています。その他、超音波検査および関連治療は年間5,186件実施しています。（2011年度実績）。

先進医療・研究

カプセル内視鏡を用いた消化管の診断および人体生理機能の解明、膵癌に対する免疫細胞療法、共焦点内視鏡を用いた細胞超微細構造の生体観察、微量生検材料を用いた遺伝子発現プロファイルの研究、消化管腫瘍に対する内視鏡治療（ESD）を応用した新しい内視鏡治療手段の開発などを行っています。



リハビリテーション部

部長 石黒 直樹 (教授)

早期リハビリテーションによる早期復帰を目指す

原則的に、急性期リハビリテーションを中心に実施しています。

診療体制

専任医師2名
理学療法士21名
作業療法士4名
言語聴覚士3名

業務内容

診療報酬点数表の区分による脳血管疾患、運動器疾患、呼吸器疾患、心大血管疾患のリハビリテーションおよび摂食機能療法を行っています。

得意分野

発症、手術などのあとの早期リハビリテーションへの対応を行っています。神経難病、人工関節術後、手の手術後などの比率が多いです。

診療実績

2011年新規リハビリテーション開始患者登録数2,336人。
うち脳血管疾患33%、運動器疾患32%、呼吸器疾患15%、心大血管疾患19%。

その他の取り組み

移動移乗、転倒などについての院内他部門への教育活動を行っています。

